

「交通事故問題を考える国会議員の会」各位殿

「慰霊祭」開催の要望書

平成 18 年 6 月 8 日

交通事故被害者遺族の声を届ける会

代表：金澤喜三

連絡先（大塚）：神奈川県川崎市宮前区梶が谷 1384-1-309

電話：044-861-7126 E-mail：info@higaisha-no-koe.com

ホームページ：<http://higaisha-no-koe.com/>

私たち交通事故遺族の願いはただ一つ、「ノー モア 交通事故」です。

失われずに済んだかも知れない命は、二度と戻らない大切な、
かけがえの無い、何に代えてでも守りたかった命です。
無念にも突然命を奪われた者たちの心の叫びに耳を傾け、
二度と起こしてはならないと願う遺族の声に耳を傾ける、
そんな「交通事故慰霊祭」の実現に向けて、皆様のご協力、
ご支援、ご指導をお願い申し上げます。

車が普及し、交通事故が起るようになってから、どれほどの人の命が奪われているのでしょうか。事故だから仕方が無い、お互い様だから仕方が無い、このような考えこそがさらなる悲惨な事故を起こし続け、そして、交通事故遺族を苦しめているのだと考えられます。

実際には交通事故は「事故」ではなく、「犯罪」なのです。今般、国により策定された「犯罪被害者等基本計画」の犯罪被害者の中に、交通事故被害者も含まれると再確認されたものの、現実にはまだまだその認識に至っていないのが実情です。

平成 5 年の犯罪白書で明確にされた、国民の多数を刑事罰の対象にしたくない、という国の考えが法曹界の交通事故に対する姿勢であり、現実には「交通事故は犯罪である」、と捉えられていないのです。尊いはずの命を奪った犯罪者に対して、「加害者天国ニッポン」が現在も遂行されているのです。先進国でありながら、このように命を軽く扱うことは、恥ずべきことでもあり、あってはならないことのはずです。

犯罪白書、交通安全白書の数字を見ると、平成 10 年頃を境として、それまで車の保有台数とほぼ同じように増え続けてきた交通事故が、それとは関係なく急増している事実があります。これは、運転者のモラルが低下し、従来以上に悪質な交通犯罪が増加していることの証ではないでしょうか。

メディアに於いてもそれは同じで、他の犯罪のような扱いにはならず、これほど多くの犠牲者を出しているにも関わらず、取り上げられるのはごく一部ではないでしょうか。犯罪として扱われず、メディアからもそっぽを向かれているというのが、残念な事に、悔しい事に、交通事故被害者遺族の置かれている現状です。

5 年に一度、国により行われている交通事故問題に関する施策の「交通安全基本計画」の公聴会にも昨年遺族として初めて参加することになりました。35 年目にして初めてということになります。また、毎年、春と秋に行われている交通安全週間においても遺族の声を聞くことは、まず無いように思います。

かつてわが国が世界一の治安を誇ったのは「命を大切にする国」だったからではないでしょうか。連日のように殺人事件の報道がなされるようになってしまった一方、交通犯罪に関しては、わが国の経済発展と共に車両で命を奪う行為が必要悪であるかのような寛容さがひろがってしまい、「人の命を奪うような行為は許されない」というドライバーとしての義務、人間としての義務さえ自覚していれば多くの命が奪われずにすんだにもかかわらず、命の問題に対する感覚がマヒしてしまっているのではないのでしょうか。

私たち交通事故被害者遺族は、何らかの方法で、交通に関わる人々や企業、これから運転をしようとする若者、いや、国民すべてに、交通事故で奪われた命の重みを知っていただきたいのです。

さらに、国には、交通事故死者数を半減するというような数字を掲げるのではなく、交通事故死ゼロを目指し、二度とこのような事故が起きないように、できる限りの安全策に取り組み、交通事故死根絶を誓っていただきたいのです。

この私たち遺族の願いをかなえることができるのが、慰霊祭ではないかと考えます。交通事故死ゼロを目指す一つとして、ぜひ実現したいと思います。もうこれ以上犠牲者を出さないために国全体が祈り、誓い、奪われた命に対して鎮魂の礼を捧げる、そうすることにより、すべての人の命を交通事故から守りたいと思うのです。

以上、私たち遺族の悲願であります「慰霊祭」開催への取り組みに、ぜひご理解、ご協力をお願い申し上げます。

以上